

森林作業に於ける作業者の労働強度

山本俊明

I はじめに

森林内では、伐木、造材、集運材作業、地ごしらえ、植え付け、下刈り作業および除伐、間伐、枝打ち作業等多くの作業が行われている。そして、これらの作業はその一つが欠けても立派な森林を作る事は出来ない。また、これらの作業を完全に行うためには、その地形的諸条件によって、平地での作業に比べて心身ともに作業者に多大の負担を与えている。

近年農山村においては、労働力の流出、労働力の高齢化、人件費の高騰等によって高度な技術と体力を持った若い作業員を確保する事は非常に難しく、作業の実行が困難な状態になりつつある。

また、最近若い人の中では、3K（きつい、汚い、危険）と言われている仕事は嫌われており、森林内における作業もこの3Kの中に入っている。

そこで、筆者は森林内で行われている作業について、作業者の立場からどの程度の強さであるかを調査してきた。ここでは、労働強度の測定法について概説するとともに、長年にわたる調査結果について報告する。

II. 作業の強さを測定する方法

1 測定方法の条件

林業関係においては、その作業場所が野外で主として傾斜地である場合が多く、測定には携帯にも便利でかつ検査方法が簡単なものが好ましいという制約から適当な測定方法は数少ない。今後作業に従事している作業者を主体に労働科学的見地からの研究を進めていく場合、より精度の高い成果をおさめるには、まず、測定方法の如何が問題となる。そこで、森林作業において労働科学的見地からの測定方法として本来あるべき条件としては次の事が考えられる。

- 1) 平常の作業動作と全く相違しない状態を測定できること。
- 2) 測定時の心理的な面による影響を与えないこと。
- 3) 作業中は勿論その前後においても連続的に測定できること。
- 4) 身体の動きに対して直ちに生理的な変動があるのでこれに追従できること。
- 5) 作業による生理的・精神的な変動が直ちに測定できること。
- 6) 地形、作業環境に対して影響されないこと。

Toshiaki YAMAMOTO

Physiological evaluation of forest workers